

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 4 区分
 【発行日】平成 18 年 1 月 5 日 (2006.1.5)

【公表番号】特表 2004-538188 (P2004-538188A)
 【公表日】平成 16 年 12 月 24 日 (2004.12.24)
 【年通号数】公開・登録公報 2004-050
 【出願番号】特願 2003-520582 (P2003-520582)
 【国際特許分類】

B 3 2 B 27/08 (2006.01)

B 2 9 C 65/00 (2006.01)

E 0 6 B 3/62 (2006.01)

B 2 9 L 9/00 (2006.01)

【F I】

B 3 2 B 27/08

B 2 9 C 65/00

E 0 6 B 3/62 Z

B 2 9 L 9:00

【手続補正書】
 【提出日】平成 17 年 7 月 8 日 (2005.7.8)
 【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

機能フィルムの第 1 処理表面を形成するために、該機能フィルムの第 1 表面に第 1 有機チタネートプライマーを適用する工程、および

グレージング予備積層物を形成するために、該機能フィルムの該第 1 処理表面と第 1 ショック散逸層を互いに接着させるように双方を接触させる工程、を含む、グレージング予備積層物を製造する方法。

【請求項 2】

機能フィルムの第 1 処理表面を形成するために、該機能フィルムの第 1 表面に第 1 有機チタネートプライマーを適用する工程、

該機能フィルムの該第 1 処理表面と第 1 ショック散逸層を互いに接着させるように接触させる工程、および

第 1 透明基材と該第 1 ショック散逸層を互いに結合する工程、を含み、該第 1 ショック散逸層が該機能フィルムの該第 1 処理表面と該第 1 透明基材との間にある、グレージング積層品を製造する方法。

【請求項 3】

該第 1 有機チタネートプライマーが、テトラ - エチルチタネート、テトラ - イソプロピルチタネート、テトラ - n - プロピルチタネート、テトラ - n - ブチルチタネート、n - ブチルチタネートポリマー、テトラ - 2 - エチルヘキシルチタネート、テトラ - (オクテングリコール) チタネート、アセチルアセトナトチタン、アセト酢酸エチルチタン、テトラブタノレートチタンポリマー、またはそれらの組合せを含む、請求項 1 または請求項 2 の方法。

【請求項 4】

第 1 表面を第 1 有機チタネートプライマーで処理されて第 1 処理表面を形成する機能フィ

ルム、および

前記第1処理表面に接着された第1ショック散逸層、
を含む、グレージング予備積層物。

【請求項5】

前記機能フィルムが、反対側の表面を第2有機チタネートプライマーで処理されて第2処理表面を形成し、そこで該グレージング予備積層物がさらに前記第2処理表面に接着された第2ショック散逸層を含む、請求項4のグレージング予備積層物。

【請求項6】

第1表面を第1有機チタネートプライマーで処理されて第1処理表面を形成する機能フィルム、および

前記第1処理表面に接着された第1ショック散逸層、および

前記第1ショック散逸層に結合された第1透明基材、
を含み、前記第1ショック散逸層が前記機能フィルムと前記第1透明基材の間にある、グレージング積層品。

【請求項7】

前記機能フィルムが、反対側の表面を第2有機チタネートプライマーで処理されて第2処理表面を形成し、そこで該グレージング積層品がさらに、

前記第2処理表面に接着された第2ショック散逸層、および

前記第2ショック散逸層に結合された第2透明基材、

を含み、前記第2ショック散逸層が前記機能フィルムと前記第2透明基材の間にある、請求項6のグレージング積層品。

【請求項8】

機能フィルムとショック散逸層の間に有機チタネートプライマーを供給する工程、および

該機能フィルムと該ショック散逸層を互いに接着する工程、
を含む方法。

【請求項9】

機能フィルムとショック散逸層の間の接着領域で前記ショック散逸層に接着された前記機能フィルムを含む物品であって、前記接着領域が反応した有機チタネートプライマーを含む、物品。